

Uniform

ユニフォームプラス

Plus+

10



巻頭特集

オフィスワークを 支える仕事服

サンコーインダストリー株式会社

大阪市西区

働きやすい職場環境で モノ作りの根幹を支える

ねじの専門商社であるサンコーインダストリー株式会社は、業界トップクラスの約70万点のアイテムを取りそろえて機械や家電、造船、建築、自動車などさまざまな業界のニーズに応える。「顧客、取引先との共存共栄で相互の繁栄」とともに「社員の幸福の実現」を経営理念に掲げる同社。社員が働きやすい環境作りを推進しており、制服も「着心地の良いものを選ぶことは、職場環境の改善と同じ」（奥山淑英社長）と重視する。10月に新調する制服とともに、モノ作りの根幹を支えていく。



サンコーインダストリー株式会社(大阪市西区)



奥山淑英社長



季節のメロディーを奏でるカリオン

**遊び心にあふれる社屋
70万点そろえ即納体制**

サンコーインダストリーは、大阪市西区のオフィス街にある。本社社屋壁面にある時計の上部に取り付けられたカリオンは午前9時、午後零時、3時・6時に季節ごとの音楽を奏でる。3階建ての屋内に入ると、さまざまなねじの陳列とともに、2階オフィスフロアの船をイメージしたデッキ、3階にあるラウンジバー、暖炉、トレーニングルームなどが目を引く。いずれも社員が利用できる。またドアノブもねじ形状にするなど、いたるところに遊び心があふれる。

奥山淑英(よしひで)社長は「社員は一日のうち3分の1ほどを会社で過ごします。仕事は環境に左右される面が大きなく、居心地が悪いとしんどくなります。また初めからねじ業界に憧れて来る新入社員は少なく、この会社に来たいと思ってもらえる職場作りを心掛けています」と特徴のある社屋の理由を語る。

制服刷新で環境改善 制服委員会で検討

職場環境の改善の一環として、着心地の良い制服を重視する。そのため、数年ごとに制服を見直す。10月に新調する制服も、同社が創立60周年を迎えた2007年の制服一新時と同様に、女性社員13人による「制服委員会」を設けて選んだのが特徴だ。制服委員会は22〜37歳で構成し、営業、仕入、企画、総務、経理など各部署を横断してメンバーを集めた。

14年5月の連休明けから月2回のペースで就業時間内に集まり、「心地よい」「きつり」「きれいな」「3Kスタイル」をテーマに検討を重ねた。社内アンケートも実施し、女性社員146人のうち、80%近くから回答を得た。機能性は「着心地」や「しわになりにくい」「自宅で洗える」を重視、カラーは「黒」「紺」が人気、スカートは複数から選べる方がいい、ジャケットは着ないなどの傾向が示された。その結果を

スト、スカート、ブラウス、カーディガン、ウインドブレイカーで構成する。ジャケットはアンケート結果も踏まえて取り入れなかった。またこれまで春夏用、秋冬用の2タイプを支給していたが、夏場は同社が販促キャンペーンなどで配るTシャツやポロシャツを着用する社員が多いことから、新調した制服は通年対応を選んだ。そのため、ベスト、スカートとも従来の4枚から2枚に支給点数が減り、コスト削減へもつなげた。

ベストはポリエステル70%ウール30%で黒を基調とした落ち着いたチェック柄。肩コリなどを軽減できるように軽量化にこだわった。またポケットは、スマートフォンを横にして収納できるほか、リップなどの小物入れスペースも設けた。またアクセントとなるスカートを容易に着脱できるようにループを取り付けている。スカートの幾何学柄のブルー、ピンクをそろえた。また身ごろを6枚にすることで、後ろや横から見てもきれいなシルエットを実

スカートを容易に着脱できるループ

スマートフォンを横にして収納可能



3種類のスカートを用意



多様なお仕事を扱う



後ろもすっきりシルエット

事業の強みと 社員の幸福を深耕する

同社の女性社員は、146人と全体の4割を占める。今年度から不妊治療のための特別休暇を取得できるようになったほか、短時間勤務ができる期

現した。スカートはアンケートも踏まえてフレアー、プリーツ、ストレーットの3タイプから2タイプを選べるようにした。さらにウエストベルトの前部分をカーブゴムにするほか、ベルト下の身ごろも同調して伸びるので、腹部の圧迫感がなく、見栄えを良くする。ブラウスは夏用（ブルー、ホワイト）、冬用（ホワイト、パール）を各2着ずつ支給する。

スカートをアクセント



黒を基調とした落ち着いたチェック柄

猫をイメージしたデッキ



社内にあるトレーニングルーム



夏はTシャツやポロシャツ

ベースにしながら、150点ほどを取り寄せて試着。最終的に2候補に絞り、118人の女子社員の投票によってベストな1着を選んだ。制服委員長で総務部係長の武藤麻古さんは「女子社員は若手が多いのですが、シンプルな方を好む傾向がありました。また普段仕事で接することの少ない、他部署の社員とのコミュニケーションを図れた点も良かったです」と振り返る。同社では、勤務中でも雑談が奨励されている。顧客からの漠然とした商品照会で電話対応者が分からない場合でも、周囲にすぐに尋ねられるような雰囲気や普段から作っておくことを目的としている。制服委員会の取り組みも、コミュニケーションを高める職場作りにも貢献している。

シンプルで着心地重視 シルエットにこだわり

新調した制服はかわいらしさより、着心地に軸足を置いたシンプルモダン。アイテムはベ

間を子どもが小学6年生までと3年間延長し、さらに働きやすい職場となった。

事業では、業界トップクラスの70万点を超えるネジやボルトなどのファスニングアイテムを取りそろえて機械、家電、建築、造船、自動車など、さまざまな分野の工業製品や生活用品に使われている。東大阪市にある物流センターには常時約25万点の在庫を抱えて、ITや自動倉庫を駆使した顧客への即答・即納体制を敷くのも強みだ。70万点のアイテムはすべてコンピュータに登録し、18ケタのバーコードで管理する。どの商品が倉庫内のどの場所にあるか、どれほどの数量があるのかがすぐに把握できるため、急なオーダーにも即応でき、日に売り上げるねじの数約3200万本のスムーズな受発注を実現している。

同社の経営理念である「顧客、取引先との共存共栄で相互の繁栄」と「社員の幸福の実現」を両面から突き詰めて、さらなる飛躍へつなげる。

[サンコーインダストリーのスタッフに聞く] ユニフォームの着心地はどうか。

社員が笑顔で活き活きと前向きに仕事ができるように、制服委員会のメンバーが自信をもって選んだ制服です。どの会社よりも制服が素晴らしいと思ってもらえるように、女性社員の目線で選んだ制服です。委員会を通して、部署間のコミュニケーションも図れたことが大変良かったです。

総務部係長
武藤麻古さん



毎日長時間着用する制服だからとにかく着心地がいいものがいい！制服委員メンバーで沢山の制服を何度も何度も試着し、こちらの制服に決定しました。女子社員が新制服を着用することで社内の雰囲気も変わり、気持ち新たに仕事に取り組めることが嬉しいです。

総務部主任
上茂裕美さん

Company Profile



サンコーインダストリー株式会社

大阪府大阪市西区立売堀1-9-28
<http://www.sunco.co.jp>

1946年木ねじ専門問屋として創業。ねじやボルトのファスニング（締めるもの）の専門会社として、日本のもの作りを支える。2001、05年に関西IT活用企業百選の最優秀賞受賞、05年にIT経営百選の最優秀賞受賞などITを駆使した即納体制や在庫力が強み。従業員は365人。